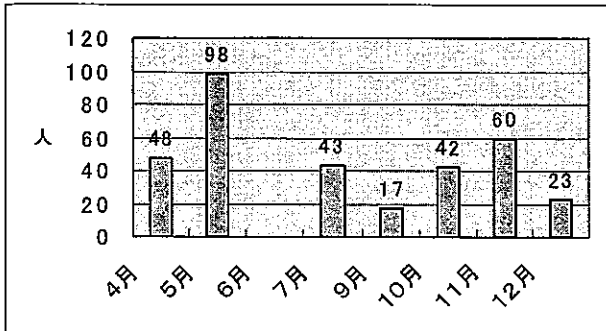


1 生徒の様子

(1) 図書室利用の変化



図書室の利用状況は左のグラフのように、各月で変化している。

6月については、学校行事の準備のために開館ができていない。また、12月については、開館日数は3日である。

9月の運動会の後、読書や図書室利用への意識が低下傾向にある10月に、ブックトークを実施していただいたことと、図書室の利用者を増やそうとする文化委員会（生徒会）の取組みが相まって、図書室を利用する生徒が増加したのではないかと考える。

(2) 委員会活動

ア 本校のブックトーク実施状況

「子ども読書応援プロジェクト」学校巡回事業のブックトークを体験した2年生の生徒が、10月下旬に生徒会役員改選に伴って、文化委員会の委員長となった。

文化委員会の活動目標として、「全校生徒の図書室の利用者を増やす」ということを掲げた。

その目標を達成するための取組みとして、文化委員会に所属する12人（各学年4人）が、ブックトークをすることとした。

1回目のブックトークをする本は、県立図書館の特別貸し出しの本や、図書室にあるものである。（本の選定を制限したのは、紹介後、借りたいと思う生徒がいても、個人の持ち物の場合、貸し出しができないからである。）

1人1冊の本を読み、紹介したい内容をメモに書き、文化委員会担当の教職員のチェックを受け給食の時間に校内放送で話すという方法である。

委員は、気に入った本をわかりやすく紹介しようと工夫してメモを書き、聞く生徒は、どんな本を紹介してくれるのだろうか、興味を持ち、静かに聞いていた。

イ 新刊購入について

全生徒から、図書室に置いて欲しい本のアンケートをとった。

それは、図書室の利用者を増やす取組みをする際に、図書室には「読みたいと思う本がない。」という声が、生徒の中からあがってきたからである。

多くの生徒が読みたいと思っている本を、図書室に置こうとする文化委員会の取組みである。

しかし、「気に入った本は、自分で買いたい。」と思っている生徒がおり、利用者数は増加傾向にあるが、図書室の本の貸し出し数は大きく変化してない。

ウ 今後の委員会の取組み

これまで、図書室の本棚の一角に「文化委員推薦図書」の欄を設けていた。その取組みは現在も続いている。図書室の利用者を増やすという目標を達成するための方法として、文化委員が推薦する図書のポスターを作成し、校内に掲示するという取組みを進めてみたいと思っている。

2 教職員・担当者の取組み

(1) 出張図書館の増設

本校の図書室は3棟（一番奥）の2階にあり、休憩時間に行く機会が少ない場所にある。

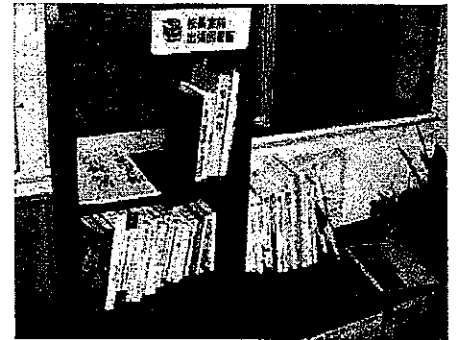
そのため、昨年度、生徒の通りの多い1棟1階の校長室前に「校長室前出張図書館」と名づけて、移動図書館を設置した。

昨年10月のブックトークの後、1・2棟の階段の踊場に、2カ所「出張図書館」を増設した。

はじめは、国語の学習内容にあわせた本を置いていた。現在、その本の入れ替えは文化委員会の活動として位置付けてきている。

この活動により、生徒にとって「読みたいと思う本」が並んでいる場に変化してきている。

ここには、貸し出し簿は置いてあるが、自由に手にとって読むことができるようにしている。



(2) 図書室の本の紹介

教職員が、授業の学習内容に合わせて、図書室の本や個人的に読んだ本を紹介するようになった。

その例として、国語科の古典の学習において、学習の前段階に、「平家物語」や「竹取物語」とはどのような作品なのかを紹介したり、学習後に教科書に載っていない部分を読み聞かせたりするというものである。

また、道徳の時間の終末の、学習のまとめをする際に、教職員自身が読んだ本の内容を引用しながらまとめをするということもある。

3 事業に関わって

本校の生徒は、「読書は好きだ」と考えている生徒の割合が75.4%である。（以下、意識調査「読書に関するアンケート」6月、12月に実施による）また、「読書は中学生に必要だと思う」と考えている生徒の割合が80.2%である。

このような意識を持ちながら、「1冊読み終えたら、次に読む本をすぐ探す」という生徒の割合は、62.9%。「いろいろなジャンルの本を読んでいる」という生徒の割合は、56.9%と低くなる。

このような生徒の状況で、ブックトークをしていただいたことは、生徒にとって意義深いものがあったと思う。

それは、ブックトークで取り上げていただいた本が、絵本や読み物、写真を扱ったものというように幅広いところから選択されたものであったということである。

「読書は必要だ」と思っているが、次にどのような本を読もうかと悩んでいる生徒や、読む本のジャンルに偏りがある生徒にとっては、読もうとする本を選ぶうえで非常に参考になったと思う。

次に、読書活動を勧める環境作りの一番は、「本が身近にある」ということに改めて気づいた。

県立図書館の「特別貸し出しの本」を1棟1階の廊下に展示していると、休憩時間に立ち止まり、手にとってその場で読んだり、借りて読んだりする生徒の姿を見ることが多くあった。

また、何人かの友達と連れだってやってきて、手に取った1冊の本の話題で盛り上がっている生徒の姿を見ることができた。

最後に、ブックトークを体験した生徒が中心となって、生徒委員会の活動につなげることができたという点がよかったと思う。

生徒自身が、自分たちにできるものを考えて実施し、継続していこうとしている。

このような能動的な生徒の姿に変化することができたのは、生徒の実態にあわせたブックトークをしてくださったおかげと、感謝している。

1. 講演会後の生徒の反応

講演で紹介された図書や講師の方の御著書は、貸出による利用はなかったが、講演後1週間くらいは、昼休憩や放課後に、毎日数名の生徒が学校図書館内に展示してある本を手にとっていた。

2. 一括貸出図書の貸出回数 (H19.11.1~H19.12.21)

のべ貸し出し回数……98回

3. 一括貸出図書利用についての傾向・気づき等

- ・貸出利用頻度の高いものの傾向としては、話題性のあるもの・人気の高い作家のもの・表紙の絵が目につきやすいもの等が挙げられる。
- ・一括貸出図書の中で貸出利用頻度の高い図書については、急速、本校蔵書としても購入した。
- ・貸出利用頻度の高い図書については、「予約待ち」の状態が続くこともあった。
(『彩雲国物語』や『都会のトム&ソーヤ』など)
- ・図書館をよく利用している生徒の中には、貸出期間の前から「どんな本が来ているの？」等興味を示すものもあり、貸出期間前から予約をする等の状態であった。
(このような生徒は、普段から新着図書への興味が深い)
- ・一括貸出図書の貸出をした生徒のほとんどは平素から図書館をよく利用している生徒であった。しかし、2名については、本年度初めての貸出利用が、この一括貸出図書であった。
- ・授業等で来館する生徒の中にも、一括貸出図書を興味深げに見る生徒がいた。
(『LOVE&FREE WORDS&PHOTOS』は、英語の授業で来館した生徒が貸出利用した)
- ・一括貸出図書のコーナーから貸出された図書のうち、14冊については本校蔵書にも同一の図書があった。特別コーナーに表紙が見えるように展示したことで、生徒の興味・関心が高まったと考えられる。
- ・図書によっては、続編や似たような内容の本への問い合わせがあった。
(『彩雲国物語』の最新刊・『The MANZAI』最新刊・『配達あかずきん』の続編および「ミステリ・フロンティア」の他の本)

- ・本校の蔵書の貸出の中にも、一括貸出図書の影響を受けていると思われるものがある。
（『妖怪アパートの幽雅な日常』や『一瞬の風になれ』等）
- ・図書の一括貸出については、他の学校での需要もあるのではないかと推測される。
（特に小規模校では、図書購入予算が潤沢ではない学校もあるため）

（参考）

平成19年度の本校での読書に関するとりくみ

1. 「読んでみよう！1年間に30冊」
（生徒は年間30冊の本を読むことを目標とし、そのうちの5冊は教科などが指定した推薦図書とする）
2. 『ライブラリーNEWS』の発行（年間6号）（図書館担当者）
3. 「図書館だより」の発行（年間10号）（図書委員会）
4. 図書館内ディスプレイ（年間10回）（図書委員会）
5. 「読書郵便」の掲示（毎月2枚以上）（図書委員を中心にした生徒）

平成 19 年度文部科学省委託事業

子ども読書応援プロジェクト
「子ども読書応援団推進事業」 報告書

平成 20 年 3 月 発行

発行 Y A 世代読書活動推進実行委員会
〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47
広島県立図書館内 T e l 082-241-4995